

# 与論島を活性化するには

3415230077 農学部 生物環境 1年 板井雄太郎

今回の講義で実際に与論島に行き、まず不便に感じたことはフェリーで移動した場合のその移動時間の長さである。鹿児島から与論島に飛行機で行った場合の時間1時間弱である。それに対して、フェリーでは約20時間と非常に長い。もちろん長い移動時間が嫌だと思える人は飛行機を使えば良いのだが、中には船旅をしたいと思う人もいるだろう。そのような人々のために、フェリーで与論島や他の島々の特産物を売り、それを使った料理をだすと良いと思う。また、それぞれの島の見どころを写真で掲示するのも良いかもしれない。これで、与論島に向かっているときはこれからの旅が楽しみになり、帰るときは旅で見聞きしたことを思い出し、また来ようと思えるようになる。さらに、その時は違う島に行く予定でも、次は与論島に行こうと思う人も出てくるだろう。他の島々との交流もよりできるようになり、与論島の活性化につながるのではないかと思った。

2つ目は与論島での観光についてである。昼に様々な場所を見に行ったが、海は予想以上にきれいだった。その他にも与論島の歴史や文化を感じることができる民俗村やサザンクロスセンター、昼に食べたもずくそばなど特産物を使った料理は与論島の良さが分かることができた。そこで、このような与論島の見どころにスタンプを置き、すべてのスタンプを集めるというスタンプラリーを行うというのが良いと思う。子どもはこれを喜んでするだろうし、自分で全部集めきることで、お金で買うお土産とはまた違った意味でのお土産になるのではないかと思った。それと、最初の頃は自分がどこにいるのか、どの道を行けば目的地にたどり着けるのかを地図を出して調べなければならなかったので、面倒くさいと感じた。このようなことをなくすために、島の所々に現在地の文字が載ったマップを作るといいと思う。また、夜にも外を出歩いてみたが、道路のある場所には街灯を置くべきではないかと思った。このままだと、昼以上にどこにいるか分からず、マップを出しても暗くて見えず、迷子になる人も出てくるのではないかと思った。また、数は少ないとはいえ、車、自転車も通るので子どもは特に危険である。街灯を置かないことで星がよく見えるという長所はあるだろうが、事故が起こるのは避けなければいけない。そこで、与論島に星を見るための場所をつくってはどうか。百合ヶ浜やパラダイスビーチなど海と同時に自然を楽しめるような場所がいいだろう。もしくは、一番標高が高い位置につくるとより見えるようになるので良いかもしれない。そして星を見るための場所には明かりを置かないようにすれば、街灯を置いていないときと見やすさは一緒に安全性はこちらのほうが上ではないだろうか。与論島から帰るときに何事もなく「楽しかった。また行きたい」と思わせることが大切である。

3つ目は農業についてである。与論島にはサトウキビやアテモヤなどこの島ならではの農産物がある。そこで、これらの農産物を有機農法で育てるのはどうか。アテモヤは今

まで聞いたこともない珍しい果樹であり、有機農業も世界でもまだあまり普及していない農法である。今のところ有機農家は4,5人というので、より増やすことができれば、珍しい果樹を有機農業で育てている島として与論島の名を世界的に広めることができるのではないだろうか。私も有機農法で作った料理を食べたことがあるが、自然そのものの味を楽しめた。近隣の島にそのおいしさを知ってもらうことで、より農業を活性化できる。また自然を大切にしている与論島には有機農業は合っているやり方だと思う。

これらのように今まで与論島を活性化するために改善したほうがいいと思うところを提案してきたが、実際に行ってみるともう一度行きたいと思わせる魅力がある島だろう。つまり、一番重要なのは、多くの人々に与論島の存在やその良さを知ってもらうことである。そのためには、日本中の港、空港など旅の交通手段の拠点となる場所に与論島のポスターを掲載することが良いのではないかと思う。それを見た人々が興味を持ち、与論島に実際に行き、良かった所を他の人々に話せば、その人も興味を持つといった流れができるのではないかと思う。与論島に来る人々の数が多くなれば、島の活性化につながるだろう。